



奥物部美術館

奥物部美術館では、四万十市在住の作家、佐竹健児の抽象画展を開催します。佐竹は、昭和36年に須崎市に生まれ、昭和60年、金沢美術工芸大学油画専攻を卒業しました。活動を始めた初期から、一貫して抽象画の可能性を追求している作家です。

奥物部美術館

佐竹健児展

Painting, Red Red Yellow
Painting, Blue Blue Green

※最終日は15時まで

2月5日(日)～3月26日(日)

休館日/月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)

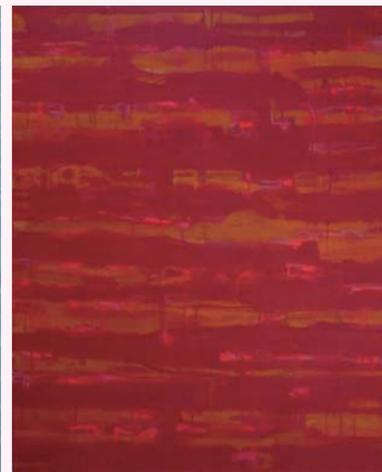
会期中3月5日以外の日曜日に作家在廊

これまで高知県内をはじめ、東京・神戸・高松で開催してきました。昨年は香美市立美術館での『誰にもわかる抽象画展』に出品し、抽象画の魅力を多くの皆さんに伝えてくれました。近年は、同系の色の線や面で色面を塗り重ねる手法で制作を行っている、独自の絵画世界を展開しています。

今回の展示では、平成25年以降に発表された作品30点を紹介しており、そのほとんどが高知県内では未発表の作品となつ



▲青と緑の絵画 2015



▲赤と黄色の絵画 2016

ています。静かで穏やかなこれらの作品を前にすると、日々の忙しさを忘れ、ゆつたりとした時が流れるように感じるのではないのでしょうか。抽象画に馴染みのない方も楽しめる展示となっておりますので、多くの方にご来館いただきたいと思います。(香美市立美術館館長・都築房子)



▲突然3人のパンクホームレスが入って来た極安食堂(バルセロナ)/藤島晃一

香美市立美術館

香美市立美術館では、『怖い絵ー怖いからこそ見たいものー』として、収蔵

作品展を開催します。当美術館には、現在800点ほどの作品が収蔵されています。その中には、味わい深いものであっても、印象が暗かったり鋭い問いかけがあったりといった理由から、収蔵庫の奥でひっそりと眠り続けている作品があります。そのような作品を一室に集め、じっくりとご紹介したいと思えます。血みどろの絵師といわれる絵金の屏風絵や、アンダーグラウンドの世界に寄り添う藤島晃一のドローイング、小作青史の存在感ある

人間を描いた版画など、さまざまな絵が勢ぞろい。何を怖いと思うかは、見る人それぞれの感性に委ねられます。この機会に、見る人の心を揺さぶるような作品をぜひご覧いただきたいと思えます。また、これに併せて、香美市内7校の小学4年生が制作した作品も展示します。寒い季節ですが、怖くて面白い作品との出会いを、美術館で楽しんでいただければ幸いです。皆さんのご来館をお待ちしています。(館長・都築房子)

怖い絵

怖いからこそ見たいもの

2月11日(土・祝)～3月20日(月・祝)

休館日/月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)



▲絵本太功記 杉の森とりで/絵金(個人蔵・香美市立美術館寄託)

吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会 講演会

第14回吉井勇顕彰短歌大会表彰式の終了後に、講演会を開催します。

井勇記念館隣
【講師】玉井清弘さん(NHK学園短歌講座選者・『音』選者)

講師は今大会選者の玉井清弘さんです。大会への作品投稿の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。※入場無料

【日時】3月11日(土)
13時～表彰式
14時～講演会

【送迎バス】※要予約
香美市役所本庁舎前より、JRバス美良布駅経由で、無料送迎バスを運行します。行き 12時発(JRバス美良布駅12時20分) 帰り 15時40分発(JRバス美良布駅経由本庁舎前)

吉井勇作品紹介(冬)

大雪となりし高志路のしづけさは

深深として切なかりけれ

さすらひの身を置くところ雪國の

八尾の酒は冷たかりけり

【解説】吉井勇は昭和20年2月、戦火を避けて現在の富山市八尾に疎開しました。歌集『寒行』一北陸雪中吟一には、「雪深くして往くに悩むと雖、人生の岐路に」を垣間見ることが出来ます。

■問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

香美市民憲章 -平成24年4月1日制定-



前文 私たちの香美市は、美しく、豊かな自然に育まれています。先人が築き上げた尊い文化や伝統を受け継ぎ、人々が愛と勇気を心に持ち、誰もが幸せを感じられるまちを目指し、ここに市民憲章を定めます。

- 本文
- 1、豊かな自然を守り、美しいふるさとを未来に届けましょう。
 - 1、互いに思いやり、ささえあう、心安らぐまちにしましょう。
 - 1、歴史に学び、伝統を守り、高め、文化の香りあふれるまちにしましょう。
 - 1、子どもたちの笑い声は宝物、みんなで見守り育てましょう。
 - 1、感謝の気持ちを大切に、元気で働き、仲よく住みよいまちにしましょう。

